



心算切

特別
子12
3643
13(10)





道成寺

見^アく^シ紀^ノ列^ノ道^ノ成^ノ寺^ノの^ニ住^ス僧^トありて^ハ住

梅^ノ下^ニ當^リち^シよ^クを^シひ^ク去^リ子^細く^シ

久^ク敷^キ撞^ツ鐘^ガ退^ク特^ク住^クゆ^クゆ^クと^シ此^ノ程^ニ毎

興^コ鐘^ヲを^テ請^フさ^シて^ハ今^ニ日^ニ吉^ク日^ナり^ト

福^ヨの^ハ福^ノ乃^ハ法^ノ養^ヲを^シつ^テた^カや^とぬ^ル

い^ハう^ニに^テ能^カも^もや^鐘を^バ鐘^樓へ^上て^ラる^ル

鐘樓

故
梅若誠太郎氏
昭和四年五月廿七日
梅若東戸氏
寄贈
新館圖書印

早鐘樓上にて宿入久 早 宿 入 久

鐘の俵養をいひしりもあきて有ぞ

又去子細方同女人禁制うらむ方ぞか

まいて入も入お其心入久 ま い て 入 も 入 お 其 心 入 久

俵養子しあし 俵 養 子 し あ し

俵養子しあし 俵 養 子 し あ し

俵養子しあし 俵 養 子 し あ し

寺の鐘の俵養のた入れ申の程

入志ほろく 入 志 ほ ろ く

心うまきいそらぬ日 心 う ま き い そ ら ぬ 日

入志ほろく 入 志 ほ ろ く

心うまきいそらぬ日 心 う ま き い そ ら ぬ 日

入志ほろく 入 志 ほ ろ く

心うまきいそらぬ日 心 う ま き い そ ら ぬ 日

白拍子

ての鐘の法貴ふそと舞をまじり
し。信養をたねまきと鈴の久
きく
舞うるや舞を舞をまじり
る
まじり交人の鳥宿をまじり
舞で改柏子をまじり
卯まねをまじり
まじり交人の鳥宿をまじり
舞で改柏子をまじり
卯まねをまじり

上
入あひの鐘よ花にそ
ちりたる
霜をまじり
山寺
道成の心
興行の寺
去ほこま
舞をまじり
上
入あひの鐘よ花にそ
ちりたる
霜をまじり
山寺
道成の心
興行の寺
去ほこま
舞をまじり

おあはれ寺の鐘の邊村の邊大橋の
對して人々眠るはよき時ぞと立
まふ様もく縁石のよもしてはけりん
やせうとくはくへけ鐘うらみも
龍頭もまゆもきやまのりかん
ひまうとくもきまのりかん
道断が橋の邊となくはくく女人

道断

三

禁制のり申してはく曲事して
うらみもあはくはくはくはくはくはく
鐘もけり女人禁制とくはくはくはく
のりもあはくはくはくはくはくはく
はくはく其理もあはくはくはくはくはく
おはくはく物語へ
けりもあはくはくはくはくはくはく

道断

飯老一人の息女シヨと申すは奥よ
に熊野クニノへ年トシ給ニラまはすは伏フスり有アリり
庄司シヨウジもやと宿坊シヨクボウと云イハふはつはし
飯イハあよききりぬ庄司娘シヨウジメと籠テラもこの
あまきしよあ乃客僧キヤクソウこそは女メ妻ツメよ
夫ウツトよあひびと戯タムレとたされは子コ滅メツ
やまの年トシ月ツキとまはるまはるあつと死シ

飯客僧イハキヤクソウはあつとあつとあつとあつと
夫人フケ志シのまつくは客僧キヤクソウの園エノのゆき
づらひとあつとあつとあつとあつとあつと
むくぢくと申マウしうの客僧キヤクソウ大オホきよこも兒コ
だちあつとあつとあつとあつとあつとあつと
愚シロ出イくは寺テよあつとあつとあつとあつとあつと
申マウしうの隠カクレもあつとあつとあつとあつとあつとあつと

道成

五

昔うー其うらうらには客信と隠一とく
 相似せきと伏せし所も向てして
 くら杉節日高門の水辺に埒を
 一いふバの上まよとさるるさるる
 ことまのりーく入るれ毒蛇くぬく河と
 易くくわさるるけしてくこさるる客
 うーこを尋るる病ありたるはあり

中め竜頭とくうの七まよひ纏ひ焰
 を出度とぬくきまきバ鐘ハ即湯と
 成く鏡子山伎とるる村まらぬあん
 ほくあーまあーりあーそ 一言語
 道新がおみうらうき津物語は
 子 其時乃女素靴心あつて又
 此鐘子障得とあつてぬる我人の

道成

ホ

行功し加振の為きて社之窟を初く
し鐘を二度鐘樓へ上りせりて
を懸るるなり
水くみの日さるる
のき研れ枝きつるを行者の法方
をさるる皆一同子色をよ
東方より
降三世明王 南方より軍荼利夜叉
明王 西方より大威徳の王 北方より
地より

へ金剛求吠明王 中央より大日大聖不動
曼陀羅縛日羅南旋多摩
曼陀羅多耶味多羅
得大智惠知持身者即身成佛と
べうの蛇を初るる
まはく勤く

鐘を鳴らすとて人々を驚かす鐘樓より
 物もさるるものもさるる地味もさるる
 青龍の東方青龍清浄清浄西方
 火焔の黒相を去てその初まはつた
 られつたは洗浄をまらしては
 此の羅戸不動の慈悲の偈明王の
 ぞ初まはつたは洗浄をまらしては
 鐘を鳴らすとて人々を驚かす鐘樓より

白淨白龍清浄中央眞身黃竜一大
 三千大千世界外恒外の龍王ありて
 納受哀願自謹乃んまじあまじひつ
 大地のありてまじあまじひつ
 まじあまじひつ
 鐘を鳴らすとて人々を驚かす鐘樓より
 火焔の黒相を去てその初まはつた
 られつたは洗浄をまらしては
 此の羅戸不動の慈悲の偈明王の
 ぞ初まはつたは洗浄をまらしては
 鐘を鳴らすとて人々を驚かす鐘樓より

首版

長ナガク少コ入イレママきキおオのノきキたタるルにニ心ココロをヲ強ツ
 坊ボウみミをヲ辨ハカまマるルにニ心ココロをヲ強ツ
 長ナガク少コ入イレママきキおオのノきキたタるルにニ心ココロをヲ強ツ



